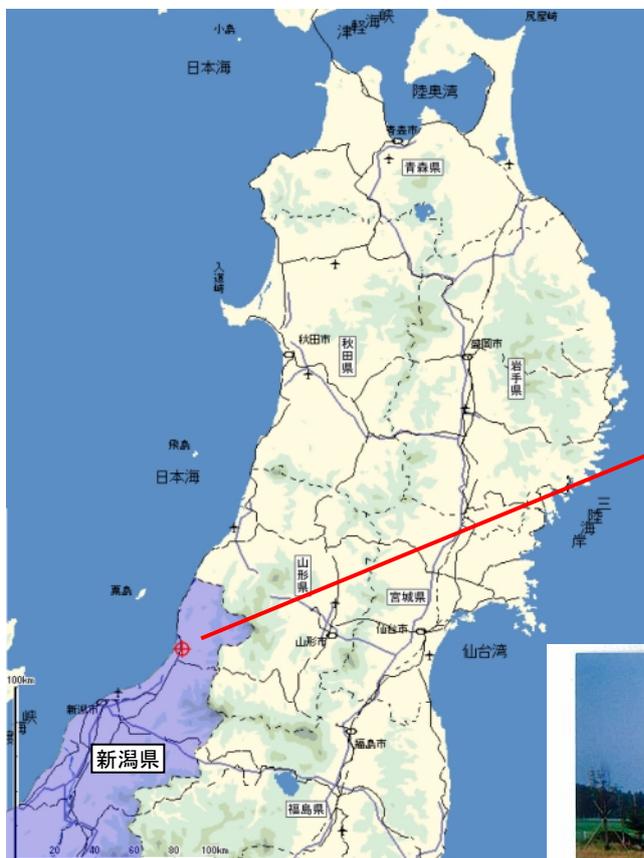


## 38 新潟県 神林村

### あり あけ こう し みず こう えん 有明郷清水公園

水源	導水方法	導水管所	水環境上の問題
雨水	既設水路・新設管路 自然流下	河川・水路 堀・池	親水性・景観



※地図中の破線枠は次ページの地図範囲



住民による維持管理活動の様子

#### 対象地域の概要

##### ・地域の概要

神林村は、新潟市より北東に 67km、岩船郡のほぼ中央に位置し、東から北西部にかけて村上市、南東は関川村と、そして 1 級河川荒川をはさんで荒川町と接し、西側は日本海に面しています。稲作に適した肥沃な神納平野があり、コシヒカリを生産する穀倉地帯となっています。人口は 10,478 人、世帯数は 2,841 戸（平成 17 年 8 月現在）です。

有明郷清水公園のある有明集落は、人口 426 人、世帯数 104 戸と村の 39 集落のうち 7 番目の人口となっており、神納小学校、神納中学校の 2 校の学校があります。

集落東部には、古くから養魚池、灌漑用水として利用してきた伝説の池「とら堤」と越後三十三観音札所の 27 番、光浄寺裏には、三十三観音が建立されており、四季折々の花木に囲まれながら、静かに集落を見下ろしています。



<p>対象地域の概要</p>	<p>・対象水域の概要</p> <p>有明郷清水公園は、有明集落はすれにある水田内に位置し、公園内の井戸は「郷清水様」と呼ばれ、光浄寺ご本尊である観音菩薩が誕生したと伝えられる由緒ある場所です。</p> <p>地元の人達はこの清らかな水を、古くから飲料水や農業用水、祭礼時に欠かせない水として利用すると共に、井戸清掃等の維持管理を行いながら大切に守り続けてきました。</p> <p>また夏の夜は、井戸から緩やかに流れる小川には、たくさんの蛍が飛び交い、賑やかな光景を創り出していました。</p> <p>神林村は、この豊富な地下水を水源とする村で最初の簡易水道事業を、昭和34年1月1日から開始しました。(西神納地区、有明、飯岡、小出一部、殿岡)</p> <p>この事業の開始により、衛生上及び危険防止のため、井戸の上にコンクリートの蓋がかけられ、維持管理の出入り口は設置されましたが、井戸の水は集落の人達の目に直接触れることは出来なくなりました。</p> <p>しかし、井戸からオーバーフローした豊富な水はせせらぎを形成しながら流れ、地元住民にとって関わり深いものでしたが、上水道事業の普及と浄水場の新設により郷清水の井戸は、静かにその役目を終えました。</p> <p>こうした状況下でも、毎年8月7日には供物を供えて、わらで作った馬を流して、先祖様を迎える伝統行事(郷清水様)を現在でも続けられています。</p> <p>・水環境上の問題：水質悪化・悪臭、生態系悪影響、<span style="border: 1px solid black;">景観・親水性</span></p> <p>&lt;問題発生の経緯&gt;</p> <p>近年実施された圃場整備事業によって、創設地に平成12年4月に統合中学校が新設されたことにより、井戸の周辺の環境は大きく変貌しました。</p> <p>これに併せて地元の意向を重視して、より好ましい姿を残しつつ、多くの人達に親しんでもらえるように、郷清水様の井戸を中心とした有明農村公園の建設が進められました。</p> <p>圃場整備完了後、井戸の水位が低下し、かつての豊富な水量が維持されなくなりました。その原因は不明です。</p>
----------------	---

対象地域の概要	<p>&lt;事業化の経緯&gt;</p> <p>井戸の水が涸れるということは、集落が守り続けてきた伝統行事存続の危機に直面することが危惧され、地元住民から安定的な水量の確保については、強い要望がありました。</p> <p>有明集落は、公園整備にあたり平成9年から郷清水の井戸の復活、せせらぎの回復を目的に区役員、農家組合、生産森林組合、婦人会、老人クラブ等の各団体代表からなる農村公園整備に関するプロジェクトチームを設置し、導水による解決を図るため、積極的に取り組みました。</p> <p>この要望を受けた村は、井戸に水を引き入れる導水工を建設工事に取り入れることにしました。</p>
導水開始	平成 13 年
水源	<p>・水源 とら堤（農業用のため池）</p> <p>・理由 当初は、近隣の神納下水処理場の下水処理水からの導水を検討していましたが、井戸に処理水を入れることは「神様を汚すことに等しい」との意見から見送られました。</p> <p>その代替水源として候補に挙がったのが、古くから農業用のため池として利用されてきたとら堤でした。</p> <p>とら堤を水源とする岩井川から自然水を導水することにより、将来的に蛍の餌となるカワニナの幼貝が混入し繁殖するものと推測し、蛍が昔の同様飛び交うようになったとしても、餌の確保が十分にできるとの考えから、とら堤からの導水に決定しました。</p> <p>またとら堤は、水が抜けるなどの問題がありましたが県営ため池等整備事業により農業用水の外、より豊かな水環境整備を目指した改修工事が進められていますので、今後も水源としての不安はまったくないものと推測されます。</p> <p>・他の水源 下水処理水</p>
導水量	現在は、井戸の湧水が水量は少ないものの比較的安定しているため、通年導水はしていません。水が不足する夏季のみ（6月～9月）導水ですが、自然流下のため水量は把握できません。
導水方法	<p>とら堤から越流した水は岩井川に流れ、有明集落中央を通り、神納中学校前で県道岩船停車場線を横断し、笛吹川、石川を経て日本海に注ぎますが、この県道を横断する手前で堰板により堰き止め、学校敷地内の既設側溝に分水します。</p> <p>分水された水は、既設側溝から新設された塩ビ管で導水され、井戸周辺の石積み部分から、せせらぎ水路へと流します。</p> <p>動力は用いず、自然流下で導水させています。</p>
諸施設	<p>新規設備：導水工 塩ビ管布設 22.3m</p> <p>既存設備：側溝、井戸</p> <p>導水距離：県道から既設側溝を含めて、おおよそ150m</p>
費用	<p>・費用 &lt;初期費用&gt;初期 2,801 千円（内補助金：1,400.5 千円） &lt;維持費用&gt;なし</p> <p>・内訳 &lt;初期費用&gt;</p> <p>導水工事費は、設計額で151千円でした。岩井川からの導水及び既設U型溝並びに石積みへの導水を塩ビ管による簡易な工事で済み、かなりの距離を既設の側溝を利用することが出来たため、事業費の節減が出来ました。</p> <p>導水事業以外に2,650千円がかかっています。その内訳は井戸の取り壊しと石張工に2,339千円、せせらぎの石積み護岸の整備に206千円、その他施行に105千円がかかりました。</p> <p>&lt;維持費用&gt;</p> <p>現在のところ、動力を用いていないため特に必要ありませんが、随時集水桝、側溝の清掃などの維持管理が必要であります。</p>

費用	<p>・負担主体          &lt;初期費用&gt;新潟県、神林村                      &lt;維持費用&gt;簡易な費用は有明集落、多額な費用は神林村          清掃等の維持管理は、集落住民による共同作業で実施しています。</p> <p>・補助          なし</p>
運用状況	<p>現在は、井戸の湧水が水量は比較的安定しているため、導水はしていません。          水が不足する夏季のみ（6月～9月）、有明区の判断により導水しています。</p>
関係主体者との調整	<p>・調整内容          岩井川は農業用水として利用されていましたが、圃場整備の完了によりパイプラインによる灌漑となり、農業用水としての必要性がなくなりました。          とら堤の水も越流水のため、水利権に影響はありませんので調整はしていません。          公園整備にあたり住民の意見を集約し、より親しまれる郷清水公園を建設するため農村公園整備に関するプロジェクトチームを中心に検討を重ねました。          また用地についても圃場整備の完了により、公園用地及び井戸の所有権が個人から神林村に移り、維持管理が有明集落に委託されることになったため、調整の必要もありませんでした。</p> <p>・関連主体と主な役割          農村公園整備プロジェクトチーム：郷清水の井戸の復活、せせらぎの回復を主な活動とする。          有明集落総会：最終決断は、総会の承認を得て行った。</p>
効果	<p>・導水事業          井戸の湧水量は、完全復活とは言えないが常時湧き出るまでに回復し、集落住民が待ち望んだせせらぎ水路に緩やかに流れています。          また水量の不足する夏季期間には、状況に応じてより簡単に経費のかからない導水方法によって水量が安定し、水路には昔ほどではないが蛍が舞い、少しずつ昔の賑わいを取り戻し、集落の人達の目を楽しませています。</p> <p>・事業全体          公園完了によって、井戸の所有者が代々大切に守ってきた水神様の掛け軸が、有明区に寄贈され、より身近な井戸として復活し、閉ざされてから40年あまりの歳月を経ての集落の人達の前に再び現れました。          平成13年5月13日の竣工式には、集落のお年寄りや子供達など大勢の人達の歓喜に包まれ、郷清水の井戸はその言い伝えのように集落の願いをかなえ、明るい希望の公園として生まれ変わりました。          かつての水量は確保できませんが、ゲートボールや公園を訪れる人達や神納中学校の生徒が覗き込み、癒しの場としての井戸と水路が活用されています。</p>
課題 今後 の 時 ・	<p>実施時に支障となったことはありませんでした。          湧水の復活により、通年導水の必要はなく、水量の少ない夏季のみに限り導水をしていますが、万一に備えた設備として存在意識は、失われていません。</p>
注 目 す べき 事項	<p>地域特性として、「水」もしくは「井戸」に対する地元住民の想いが、強い状況にあります。集落あげて、伝統行事の継承と公園の維持管理の徹底をはかり、通年導水の実績はありませんが、湧水枯渇等の万一に備えた水源として、経費がかからず恒久的に簡単に導水することが出来ます。          水源のとら堤を含め、この導水事業のすべてに共通することは、昔から集落の人達の心のよりどころとして受け継がれた何気ない生活の中にあり、それを支えてるものは、清らかに流れる豊かな水であることに間違いありません。</p>
関 連 情 報 そ の 他 事 業 ・	<p>中山間地総合対策事業（県単）          有明農村公園建設工事（郷清水井戸改修工事含む）          県営ため池等整備事業（とら堤）</p>

資料提供先 及びリンク	新潟県岩船郡神林村 (代表) 0254-66-6111
----------------	-----------------------------



とら提 (農業用のため池)



とら提からの導水

手前の井戸からせせらぎ水路への流入

導水経路



40年ぶりに復活した井戸を覗き込む地域住民



喜ぶ子ども達やお年寄り



井戸水を祀る石碑（郷清水様）  
（井戸の工事により移動しました）

賑やかな竣工式の様子